

令和7年度学校評価計画書

R7

R6

経営目標	取組内容	主担当	現状	評価の指標	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	R7前期		R6後期		
								達成度	(4の割合)	判定	達成度	(4の割合)
(1) 主体的に考え表現する子の育成	ア★ 「資質・能力の育成につながる子供主体の授業づくり」に向けた組織的計画的な授業実践	学力向上部 高澤	<p>○自分の考えをもつため、学び方等を選択する授業になるよう意識している教員が多い。また児童は主体的に学び方を選択することができている。</p> <p>△学び方の選択の場所が曖昧であり、差が見られる。</p> <p>△自分の考えを伝えたり表現したりすることが苦手である。</p> <p>○単元構想シートや振り返りの視点などを用いて、学校研究の共通実践を意識して教材研究に取り組んでいる。</p> <p>△教科の見方・考え方の捉えが甘く、授業の中で児童が働きかけている様子が見られない。</p>	満足度	S:授業で、自分の考えをもち、伝え合う・発表する・まとめるなどして、自分の考えを表現している。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%~90% C:60%~80% D:60%未満	全児童 7・12月			新	
				努力	T:児童が主体的に考え、表現するための手立てを講じている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%~90% C:60%~80% D:60%未満	全教員 7・12月			新	
				満足度	S:授業では、「見方・考え方」を働きかせて、自分の考えをもつたり、学び合ったりしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%~90% C:60%~80% D:60%未満	全児童 7・12月			新	
				努力	T:学校研究の重点「教科の見方・考え方を働きかせられる意図的な仕掛け」をするために、日頃から意識して授業に取り組んでいる。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%~90%未満 C:60%~80%未満 D:60%未満	全教員 7・12月			新	
表現する子の育成	イ 考えの表現・基礎学力の定着	学力向上部 宮谷	<p>○昨年度の教師アンケートでは、「児童の基礎学力の向上に結びつくような指導をしているか。」では、前後期ともに100%であり、教師の意識は高いと言える。</p> <p>△学期末テスト実施に向けた取組(復習にかける期間や個の理解度に応じた支援等)については教師間で差があると考えられ、定着が十分とは言えない。</p>	努力	T:朝学や補充学習、合格テストを通して、基礎学力を身に付けさせるための指導を個に応じて行っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全教員 7・12月		100%	72%	A
				成果	点数:学期末テスト(国語・算数)の各学級平均点が全国平均を上回った割合	4:全国平均+3点以上 3:全国平均以上+3点未満 2:全国平均未満-3点未満 1:全国平均-3点以上	○4+3が (国・算のテスト結果) A:22学級以上 B:20学級以上 C:15学級以上 D:14学級以下	学期末テスト				
(2) 自ら考え送ろうとする子の育成・健康・安全な生活	ウ 学力調査等の分析から分かった自校の弱点の補充とその検証(資質・能力育成シート)	学力向上部 三津谷	<p>○問題に線や丸を書いて、問題で何を聞かかれているか明らかにしながら解こうとしている。</p> <p>△条件を正確に捉えたり、用語やキーワードを使って最後まで書き切ったりすることが苦手。</p>	努力	T:児童に用語やキーワードを使って書ききらせたり、丸囲み・線引きの指導をしたりしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	A:4が80%以上 B:4+3が80%以上 C:60%~80%未満 D:60%未満	全教員 7・12月		100%	44%	A
				成果	点数:各学級における検証問題(国語・算数)を条件に沿って解答している児童の割合。	検証問題の期待正答率を達成したクラスの割合で判断する(12クラス)	A:10学級以上 B:9学級 C:8学級 D:7学級以下	全児童 7・12月				
	ア 健康的な生活習慣を定着させるための取組(保健・掃除・給食)	保健安全指導部 保	<p>○基本的生活習慣の定着が見られるようになってきた。</p> <p>△口腔内の課題は改善しつつあったが、虫歯の保有率がまだ増加傾向にある。特に低学年の虫歯の保有率が高い。歯の健康について、学校と保護者が一体となった指導を行い、歯磨きの習慣をつけていく必要がある。</p>	成果	S:朝・昼・夜と一日3回歯磨きをしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月		88%	42%	B
	イ 安全への意識を高める指導と危機管理力の向上(防災・安全)	安全指導部 燈明	<p>○避難訓練に真摯に参加しようとする高い意識をもった児童がいる。</p> <p>△避難訓練の振り返りでは、毎回にやにやしたりふざけたりしたという反省があがってくる。</p>	成果	P:子供の歯磨きが習慣化するように努めている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全保護者 7・12月		95%	47%	A

（3）自他の違いを認め合い お互いを尊重し合う子の育成	ア お互いのよさや努力・成長を認め合える人間関係づくり	生徒指導部 鶴田	△昨年度後期、児童は58%が進んであいさつできていると回答している。 ○昨年度後期、97%保護者は時と場に応じたあいさつができると回答している。	成果	S:いつでも、どこでも、だれにでも、進んであいさつをしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4が A:80%以上 B:70%以上80%未満 C:55%以上70%未満 D:55%未満	全児童 7・12月			58% 58%	C
					努力 P:子供に、時と場に応じたあいさつを指導している。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満					
	イ★みんなが安心して過ごせる環境づくり	生徒指導部 鶴田	○昨年度後期、97%の子がいじめはどんな理由があってもいけないと感じており、児童の高い意識が見られる。 ・昨年度後期で、88%の保護者が学校はいじめに関する取組を伝えていると肯定的に感じている。しかしながら、「よくあてはまる」と回答した保護者は27%にとどまっている。 ○昨年度後期、100%の教員が迅速な対応、個人カードの記入を行っている。	成果	S:いじめはどんな理由があってもいけないと思う。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4が A:100% B:95%以上100%未満 C:90%以上95%未満 D:90%未満	全児童 7・12月 (市7)			97% 97%	B
				成果	P:学校は、いじめの未然防止や早期発見のための取組を伝えている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全保護者 7・12月 (市7)			88% 27%	B
				努力	T:学校は、組織的にいじめ・不登校の未然防止と適切な対応をしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月			100% 80%	A
				努力	T:配慮が必要な児童の様子について、情報を記録・共有し、組織的な対応をしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月			100% 80%	A
	ウ★基本的な生活習慣の定着	特別支援 C N 宮前	○昨年度不登校・不登校傾向だった児童については、組織的に対応した結果、解消または改善され、教室で学習できることが増えた。	努力	T:登校に渋りを感じている児童や教室になかなか入れない児童に対して、ケース会議や保護者面談、校内特別支援会議などを活性化し、組織的な対応を行っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月			100% 90%	A
（4）自己決定し チャレンジする子の育成	ア 児童の興味関心を重んじ、ルールを踏まえた自発的・自主的活動の推進 イ 互いのよさや可能性を認め合い、伸ばし合い、よりよく成長し合える集団づくり	特別活動指導部 西田	○昨年度後期で、90%の児童が自分にはよいところがあると感じたと答えていた。	満足度	S:クラスや学校にとってよいと思うことを、自ら進んで行っている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全児童 7・12月			90% 49%	A
				努力	T:行事などの活動では、個々に目標をもたせ、活動中や振り返りの際に児童を価値付けている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月			100% 72%	A
（5）★幼小連携による教育の充実	ウ★ 運動の楽しさを味わわせる活動や体力を高める活動の充実	体育担当 笹山	△昨年度の本校の体力の総合評価が、A群+B群の割合が47.4%であった。特に握力と投の力が弱い。	努力	T:1校1プランやスポーツチャレ、げんきっず委員会の取組などに積極的に参加させ、年間を通して継続し運動能力の向上に努めている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:100% B:90%以上100%未満 C:80%以上90%未満 D:80%未満	全教員 7・12月			94% 35%	B
	ア 自分の思いや考えを主体的に表出し、他者と関わりながら学ぶ姿を育む	一年担任 燈明	・校区での重点項目「自分の思いや考えを主体的に表出し、他者と関わりながら学ぶ姿を育てる」を目指した取組を行っている。	努力	T:相互参観を通して校区での重点項目への理解を深め、主に生活科の単元構成を意識した関わりの場の設定をしている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%～90%未満 C:60%～80%未満 D:60%未満	担当職員 7・12月			新	
（6）職員の働き方改革	イ 小学校から中学校への円滑な接続を意識した指導	教頭 赤池	・河北台中校区で「家庭学習週間」の期間を6月と11月に揃えて設定している。	成果	S(5, 6年児童):計画的に家庭学習を進めることができた。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%～90%未満 C:60%～80%未満 D:60%未満	全児童 7・12月			新	
	ア 教職員の時間外勤務時間の削減への努力 イ 改善への取組と保護者や地域への理解・協力	教頭 赤池	△業務内容の見直しを心がけているが、全体的な取組量が多く、教材研究の時間が十分に確保できていない。 ○学校CN・SSSの積極的な活用は定着している。	努力	T:子供と向き合う時間や教材研究する時間を確保するように働き方の改革に努めている。	4:よくあてはまる 3:だいたいあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:あてはまらない	○4+3が A:90%以上 B:80%以上90%未満 C:70%以上80%未満 D:70%未満	全教員 7・12月			95% 10%	A